

中間貯蔵施設において当面整備する施設について

平成 26 年 12 月

環境省

(1) 初期工事の位置付け (平成 26～27 年度)

- ①輸送時の運行管理やモニタリング、施設側での受入れ手法などについて検証しつつ、様々な市町村からの搬出・輸送時の安全性を確認するため、初期工事を実施。
- ②具体的には、中間貯蔵施設の具体的な配置図に従った本格工事が始まるまでの間、施設予定地内にストックヤードを設け、フレコンバック等を搬入。
- ③概ね 1 年をかけ、福島県内各市町村の小仮置場や仮置場の一山程度から除染土壌等を搬入(パイロット輸送。各市町村から 1,000m³程度を想定)。
- ④なお、ストックヤードの設置・フレコンバック等の搬入に当たっては、まず表土剥ぎ等の線量低減措置を実施し、保管に当たっては放射性物質汚染対処特別措置法、同法施行規則の保管基準、除染関係ガイドライン、廃棄物関係ガイドライン、輸送については、これらに加えて輸送基本計画及び輸送実施計画等に基づいて実施するものとする。

(2) 初期工事後の予定

初期工事・輸送の終了後、事業の安全性を検証しつつ、本格工事・輸送を行う。本格工事は、準備が整った区画から順次行っていく予定。

(参考 1) 平成 26 年度工事の概要

初期工事のうち、第一弾として以下の 2 工事を実施。

① 件名 :

- i) 平成 26 年度中間貯蔵に係る双葉町土壌等保管場設置工事
- ii) 平成 26 年度中間貯蔵に係る大熊町土壌等保管場設置工事

② 工事概要 :

双葉町及び大熊町地内に除去土壌等を定置・保管できるストックヤード等を整備しフレコンバックを搬入。

③ 工期 : 契約締結日の翌日～平成 27 年 4 月末

(参考 2) パイロット輸送時の除去土壌等の基本的な流れ

- 除去土壌等はフレキシブルコンテナ等に入れられた形で仮置場等からダンプトラック等により輸送され、中間貯蔵施設内の受入施設に搬入される。
- 受入施設では、設置する計量施設（トラックスケール）にて、当該ダンプトラック等の積載物の重量を確認するとともに、受入検査として除去土壌等の放射能濃度や車両データを確認する。
- 受入検査を終えたダンプトラック等は、当該施設内の荷下し施設でフレキシブルコンテナ等を下し、スクリーニング後、退出する。スクリーニング時に洗車等を実施する場合については、適切な給水を確保し、排水についてはタンクに貯留し適切に処理する。
- 荷下しされたフレキシブルコンテナ等は、敷地内に設置するストックヤードに運搬し、不燃物・可燃物・焼却灰ごとにフレキシブルコンテナ等のまま保管する。

(参考3)パイロット輸送時の除去土壌等のストックヤードのモニタリングについて

パイロット輸送時に実施される除去土壌等を搬入し保管するストックヤードについて、モニタリング項目を表に示す。予定地周辺の放射線モニタリングを設置工事前後で実施し、ストックヤード設置の影響を把握する。また、作業中も放射線の状況を継続してモニタリングする。

表 スtockヤード設置に係るモニタリング項目

	モニタリング項目
輸送路	<p>【広域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主要地方道35号線東側の大熊町及び双葉町における走行可能な舗装済み道路、浪江町及び富岡町の主要道路の走行サーベイ約1000km。(操業前と操業開始後各1回) ○別途、輸送実施計画に基づき、モニタリングを実施。 <p>【ストックヤード周辺】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大気中浮遊塵中の放射性物質濃度測定(※) ○騒音、振動、NO_x、SO_x、ばいじん、臭気等(※) ○周辺土壌中の放射性セシウム濃度測定(※)
ストックヤード	<p>【事前調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現地踏査による工事予定地詳細空間線量率測定 <p>【作業エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地下水、浸出水、処理水中放射能濃度 ○空間線量率定期測定 ○大気中浮遊塵中の放射性物質濃度測定(※) ○騒音、振動、NO_x、SO_x、ばいじん、臭気(※) ○周辺土壌中の放射性セシウム濃度測定(※) <p>【敷地境界等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○積算空間線量率測定(年度内は10カ所程度、測定データを週1回取得) ○空間線量率連続測定(年度内は10カ所程度、測定データを週1回取得)

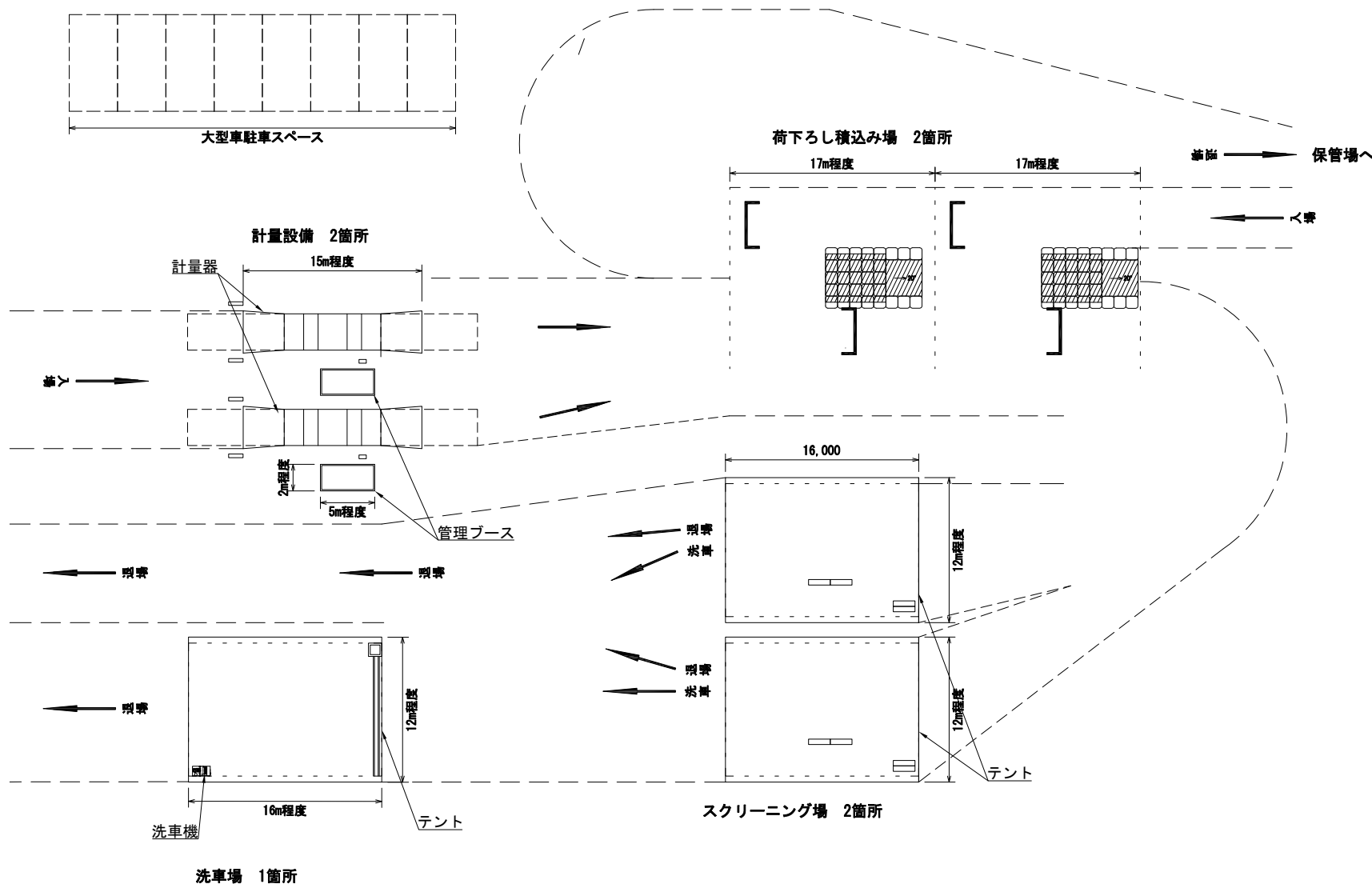
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○大気中浮遊塵中の放射性物質濃度測定（年度内は2カ所程度、週1回程度） ○無人ヘリによる空間線量率測定による線量率マップ作成（年数回） ○土壌サンプリング放射性物質濃度測定（年度内に約60カ所、年2回）（これらのうち、ストックヤード周辺において、10カ所程度実施。） ○環境調査項目（騒音、振動、NO_x、SO_x、水質項目、ばいじん、風向風速測定等）
------------	---

※ 定常的な測定項目ではないが、環境保全上の必要性等により追加的に測定。

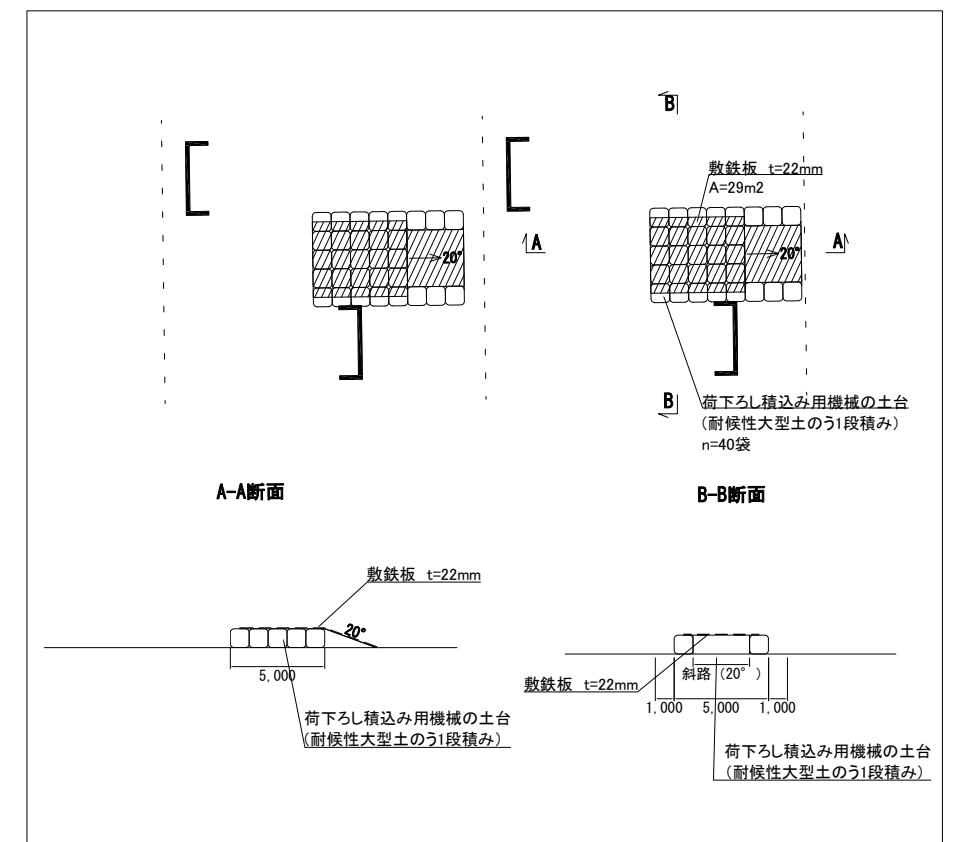
受入施設平面図（参考図）

S=1:500 (A3)

受入施設配置平面図



荷下ろし積み場



図面名	受入施設平面図（参考図）	
作成年月日	平成 26年 月	
縮尺	S=1:500 (A3)	図面番号
事業者名	環境省	